

イオンのチャレンジ

イオンが掲げている「ビッグチャレンジ2020」の活動項目の中で、Stage3への到達を目指し、2016年度に特に注力する3つの取り組みを紹介します。

「自然資源の持続可能性」と「事業の成長」の両立を目指して

持続可能な調達

イオンが開発・販売する商品や店舗の資材などは、自然の恩恵によるものであり、世界各地の生産者・生産地から調達しています。より持続可能性の高い調達を実現するため、イオンは2011年度より調達ガイドライン策定に向けた取り組みを開始。自然資源の持続可能性と事業活動の継続的成長の両立を目指し、2014年度に「イオン持続可能な調達原則」を策定しています。

水産資源の保全

「イオン持続可能な調達原則」のもと、限りある水産資源を守り、日本の伝統的な魚食文化を将来の世代に残していくために、「イオン水産物調達方針」(P.47)を定め、持続可能な水産物の調達に積極的に取り組んでいます。

●「MSC」「ASC」認証商品の開発・販売

イオンは「海のエコラベル」として知られるMSC認証商品(持続可能な漁業で獲られた天然水産物)の販売を2006年にスタートし、2014年には養殖魚を対象としたASC認証商品をアジアの小売業で初めて販売しました。(P.47)

これまでそれぞれの魚種ごとに認証商品を陳列していましたが、2015年11月にオープンした「イオンスタイル板橋前野町」では、「FishBaton(フィッシュバトン)」と名付けた常設コーナーに認証商品を集めて展開。次の世代に豊かな食文化を引き継ぐための提案を開始しています。2020年までにイオンリテール(株)の100店舗に当コーナーを設ける計画です。



イオン持続可能な調達原則

1. 自然資源の違法な取引・採取・漁獲を排除します。
2. 生物多様性保全、自然資源枯渇防止の観点で、イオン基準を設定・運用します。
3. 再生不可能な資源の利用については、最小限に留めます。
4. 農産物や漁業資源の産地、漁獲方法などのトレーサビリティを確立します。
5. 林産物において、保護価値の高い森林の破壊を防止します。

イオン水産物調達方針

資源の枯渇防止と生物多様性保全の観点から、定期的なリスク評価を行います。
またリスク低減のために、実行可能な対策を検討し、持続可能な水産物の調達に努めます。

●完全養殖魚の開発・販売

2015年6月に発売した、天然のマグロ資源に依存しない完全養殖マグロ「トップバリュ グリーンアイ 奄美うまれ生本まぐろ」に続き、2016年6月からは完全養殖ぶり「トップバリュ 宮崎県産活きメぶり(養殖)」の販売を開始しました。天然の卵や幼魚に頼らない持続可能な養殖魚の調達にも取り組んでいます。

MSC 認証

2006 年より開始。
持続可能な漁業で獲られた水産物(天然魚)



トップバリュグリーンアイ MSC認証 塩紅鮭

ASC 認証

2014 年より開始。
責任ある養殖により生産された水産物(養殖魚)



トップバリュ グリーンアイ
ASC 認証 生アトランティックサーモン

完全養殖

2015 年より開始。
天然の卵や稚魚に頼らず、養殖の親魚が産卵した卵から成魚へ成長させる(養殖魚)



トップバリュ グリーンアイ
奄美うまれ生本まぐろ

森林資源の保全

「イオン持続可能な調達原則」のもと、「イオン水産物調達方針」につづき、2016年に「イオン森林資源調達方針」を定めました。方針に基づき、森林資源の保全と活用の両立に貢献することを目指します。

イオン森林資源調達方針(紙・パルプ・木材)

適切に管理された森から生産された木材やパルプを商品の原材料や店舗の資材に活用し、森林破壊の防止につとめます。

商品での取り組み

リスクと機会を特定し、実行可能な手法を検討し、継続的に改善していくことで持続可能な調達をめざします。

1. 持続可能な認証商品の扱い
適切に管理された森林からの原材料であることを認証するFSC® 認証を取得した商品を積極的に取扱います。
2. 日本での国産材の有効活用
日本の森林の持続可能な循環のために、国産材の有効活用に取り組みます。

3. トレーサビリティの確保

リスクの高い国や地域については、森林までのトレーサビリティの確認がとれた原材料を優先的に取り扱います。

4. 違法な森林伐採の防止

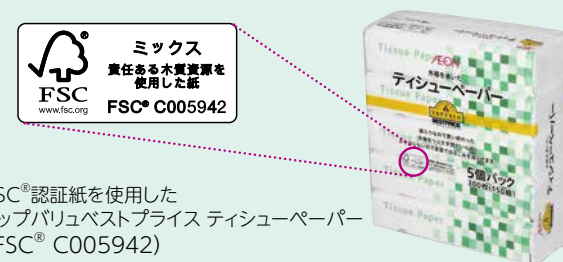
合法伐採木材等の利用の促進に関する法律に基づき、合法木材であることの確認を行います。

5. 保護価値の高い地域の保全

保護価値の高い地域の維持のため、予防措置を講じているか確認してまいります。

●商品での取り組み

適切に管理された持続可能な森から生産された木材や紙であることを認証するのが「FSC®認証」です。イオンではFSC® 認証紙を使用したノートなどを2008年度から販売しています。



FSC®認証紙を使用した
トップバリュベストプラス ティッシュペーパー
(FSC® C005942)

VOICE

イオンは、水産資源の持続可能性という観点から、従来よりさまざまな取り組みを行ってまいりました。2001年にオーガニックEU基準をもとに「グリーンアイ水産物製作基準」を策定。「トップバリュ グリーンアイ うなぎ蒲焼」を開発したのが始まりです。MSC認証商品、ASC認証商品、完全養殖マグロと、持続可能性に配慮した水産物の取り扱いをさらに拡大しています。これからもイオンは、近い未来で起こりうる変化を見据え、商品のサプライチェーンにおける環境や生物多様性、人権や労働問題などに真摯に対応してまいります。



イオントップバリュ(株)
グループ商品部
山本 泰幸

VOICE

ミニストップがFSC®認証木材を使うようになったきっかけは、「店を作る」ためにかかる多大な投資と環境負荷を減らすためでした。経済性を上げて環境負荷を下げることを追求した結果、山梨県産のFSC®認証木材をキットにした部材を使うこととなりました。FSC®は、森林の環境面と林業に従事している人たちの暮らしに配慮することを求めています。FSC®認証木材を使うことで、森の恵みを大切に活かす林業関係者を応援していきます。



ミニストップ(株)
開発本部 建設施設部
岡村 幸代



●店舗での取り組み

ミニストップ(株)では、国産FSC®認証木材を100%使用し、コンビニエンスストアとしては日本で初めて「FSC®認証」を取得した店舗を2009年に出道、2016年2月末現在、その店舗数は152店舗となりました。今後も国産FSC®認証木材を使用した環境配慮型の店舗を積極的に展開していく計画です。



次の1,000万本へ～「植樹」から「育樹」「活樹」へ

イオン 森の循環プログラム

「イオンの基本理念」を具現化する活動として、1991年度よりお客さまとともに植樹活動を行っています。

2013年度に植樹本数1,000万本を突破したことを機に、

イオンは新しいステージに進むために、「植える」「育てる」「活かす」をテーマとした「イオン 森の循環プログラム」を開始しました。



●イオン ふるさとの森づくり

1991年より、イオンは新しい店舗がオープンする時に、お客さまとともに木を植えています。



2006年（植樹）



2009年



2016年

緑あふれる
ショッピングセンターに
育っています。
（イオンモール浦和美園）

循環型社会の構築のために

「廃棄物ゼロ」の取り組み

廃棄物削減への社会的要請が国内外ともに高まっています。2015年に採択された国連の持続可能な開発目標（SDGs）に廃棄物や食品廃棄物の削減に関する目標が盛り込まれ、また、日本でも食品リサイクル法や廃棄物処理法などの関連規制が強化される見通しです。

こうした要請に応えるため、イオンは「2020年度までに廃

棄物ゼロ（＝そのまま廃棄・焼却・埋め立てする廃棄物をゼロにする）を目指し、「イオンの『廃棄物ゼロ』取り組みコンセプト」を定め、取り組みを推進しています。中でも、食品廃棄物はイオンの事業との関連性から重要なテーマであり、「店舗・商品で」、「お客さまとのコミュニケーションを通じて」、「地域とともに」の3つの切り口で取り組みを強化しています。

イオンの『廃棄物ゼロ』取り組みコンセプト

「リデュース」「リユース」「リサイクル」の3Rの手法で、廃棄・焼却し、埋め立てに回るゴミをゼロにしていきます。取り組みに当たっては、お客さまをはじめとするステークホルダーと連携し、資源循環型社会の構築に寄与します。

食品廃棄物での取り組み



食品廃棄物削減の取り組み

①「店舗・商品で」～食品廃棄物排出量の削減

イオンは、店舗で発生する食品廃棄物の排出抑制に努めています。例えば、イオン琉球（株）では、「売価変更率3.5%以下」という目標を掲げ、廃棄ロスの削減に取り組んでいます。農水畜産物および惣菜商品の在庫回転日数をそれぞれ設定し、店舗ごとに進捗管理を行うなど在庫管理を徹底しています。また、発注精度を向上させるために各店舗で発注ミーティングを実施しています。売上高や荒利益率など営業数値と関連づけて目標を明示することで、結果的に廃棄物の発生量の抑制につながっています。

②「お客さまとのコミュニケーションを通じて」～イオン葛西店で「フードロス・チャレンジ・フェス」を開催

2016年2月19日から3日間、イオン葛西店で「フードロス・チャレンジ・フェス」を実施しました。東京都の「持続可能な資源利用を進めるモデル事業」の一つであるフードロス対策の一環として、東京都環境局、フードロス・チャレンジ・プロジェクトとともに、お買物の場でのPR活動を実施し、フードロス問題について周知・啓発を行いました。



◎それ、フードレスキュー

③「地域とともに」～食品リサイクルループの構築

イオン直営農場を運営するイオンアグリ創造（株）は、再資源化事業に取り組む大栄環境（株）と「食品リサイクルループ推進に関する協定」を2014年9月に締結しました。この協定に基づき、店舗などで発生する野菜や肉などの食品残渣を大栄環境（株）の堆肥化施設で堆肥に加工、イオン三木里脇農場で使用し、この堆肥で栽培した野菜を収穫してイオンの店舗で販売することで、「イオン完結型食品リサイクルループ」を構築しています。（P.58）

VOICE

「食」と「農」を支える暮らしに身近な「イオン完結型食品リサイクルループ」は、時代が求める「安心・安全」に直結する資源有効活用新たな取組みとなっています。今後、取扱量を更に拡大しながら、食卓に並ぶ野菜たちの「おいしさ」もしっかりと意識した「安心・安全」な堆肥の安定供給を担っていきます。



大栄環境ホールディングス株式会社
代表取締役社長
金子 文雄 様

地域とともに

2016年4月、イオンは、地域の皆さまや行政、企業など様々なメンバーと一体となった地域発展の新しい枠組みである「地域エコシステム」の構築を目指し、取り組みを開始しました。

地域との新しい価値創造のモデルづくりにチャレンジ

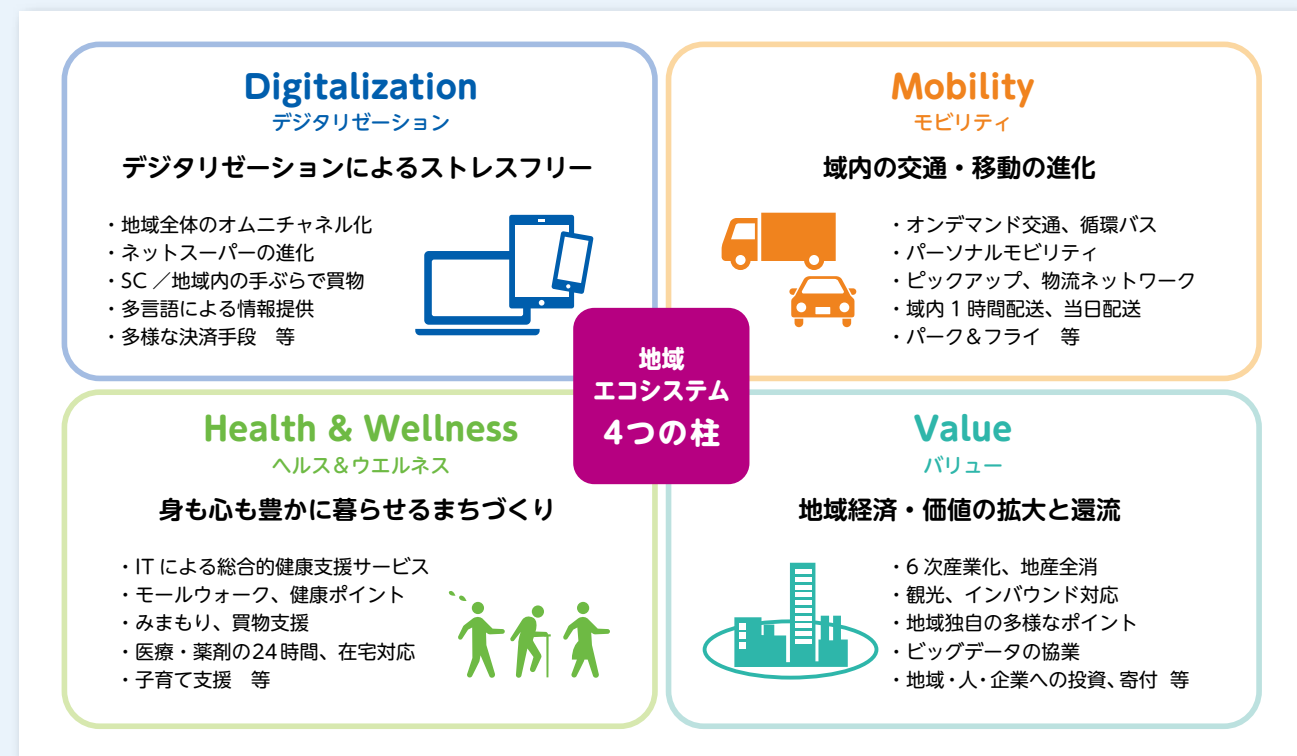
地域と暮らしの新しい関係「地域エコシステム」

「地域エコシステム」は、イオンの基本理念の一つである「小売業は地域産業」という考えのもと、デジタル時代における地域の皆さまの新しい価値観に応える新しい地域発展の枠組みです。

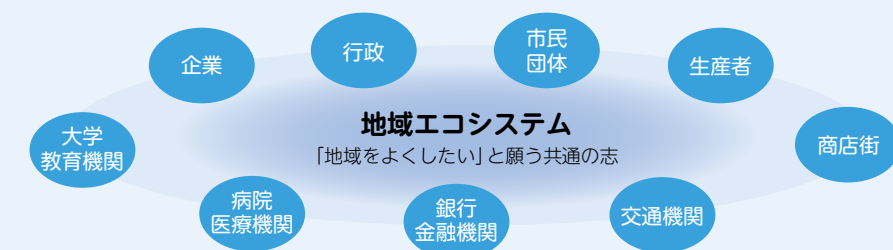
地域のそれぞれの「期待」に応え、「負」を解消するための生活プラットフォームを、行政や企業の垣根を越えた「共創」により構築していきます。

「地域エコシステム」の第1弾展開エリアとして、千葉市からスタート。千葉市が進める未来都市実証特区での様々な新しい取り組みにも積極的に参加しています。

イオンは「地域エコシステム」の構築により、地域の皆さまとともに新たな「地域産業」を追求し、今後この取り組みを全国各地に広げ、地域社会の発展に寄与することを目指します。



●地域エコシステム 参加メンバー



「地域をよくしたい」と願う共通の志を持ったメンバーとイオンが対等かつオープンなコミュニティを形成、協業し、「地域エコシステム」の構築に取り組みます。

VOICE

地域をより良くしていきたいというパートナーが集まり取り組む「地域エコシステム」は、協働のまちづくりを進めている千葉市と方向性が一致するもので、多くの人の思いを集めた「地域づくり」、「絆づくり」につながるものと期待しています。全国に先駆けて第1弾展開エリアとなった幕張・稲毛地域から、他地域のモデルとなるような具体的な取り組みの創出を目指して、本市も様々な形で協力してまいります。



千葉市長
熊谷 俊人 様

VOICE

「地域エコシステム」の取り組みは、地域の「期待」に応え、「負」を解消するために、自治体や地域、企業とITなどを活用して連携し、新たな生活基盤の構築を図り、「共創」によって更なる発展を図ることが狙いです。「デジタル化」「モビリティ」「ヘルス&ウエルネス」「バリュー」の4つの柱を掲げ、「地域社会への貢献」というイオンの基本理念の実現に向けてまい進してまいります。



イオン株式会社 地域エコシステム・プロジェクト・リーダー
齊藤 岳彦

●千葉市での取り組み

より快適に、より便利に、より楽しく

お買物 いつでも・どこでも
ストレスフリーなお買物体験

■ 例えばこんなこと...

店舗にない商品やサービスがいつでも、どこでも頼める、受け取れます
ファッションから暮らしの品まで、さらには生産者へ直接注文ができる地域全体のオムニチャネルです。

店舗があるから実際に見て、触れて、さらに人による「おもてなし接客」が可能です
イオンモール幕張新都心に「デジタルオムニチャネルストア (lilimo store)」が2016年6月にオープンしました。

暮らしに役立つ便利でお得な情報が日々配信されます
スマートフォン上での買物アプリやお店や、店舗のデジタルサイネージでイベント情報も配信されます。

どこでも使えて、どこでも貯められるポイントです
地域社会の基盤となる共通ポイントサービスを目指す、「WAON POINT」サービスを開始します。



交通・移動 簡単に、気軽に行ける、近くなる

■ 例えばこんなこと...

店舗へのお買い物がより便利に！
お買い物バスのルート、時間が拡大します
路線バスのご利用でのお得なサービスもまもなく開始します。

多様な商品の受け取りができるネットスーパーです
最短1時間で商品のお届けが始まります（現対象エリア：幕張・稲毛地区）。さまざまな場所での受け取りサービスが始まります。
店舗でのお買い物が即日お届けします。



お客さまの生活体験が変わります

ヘルス&ウエルネス 身も心も豊かに暮らせるまちへ

■ 例えばこんなこと...

24時間薬局や在宅調剤などお薬の利便性が高まります
グループやメンバーのインフラを活用した地域の医療レベルの向上を図っていきます。

御用聞きや移動サービスカー、みまもりサービスも始まります
ご自宅、お近くで商品の注文や受け取り、暮らしをサポートするサービスも受けられます。

モールウォーキングなどの健康イベントや健康ポイントサービスが始まります
快適で安全なモール内でのウォーキングができ、歩いた歩数でポイントが貯まります。

病院や大学などの医療機関と連携した総合的な健康管理・支援サービスが始まります
地域全体で私の健康を守ってくれるスマートヘルスの実現に向けた取り組みを進めています。



地域活性 地域のつながり、活性化、地域貢献

■ 例えばこんなこと...

お買物で地域に貢献します
「ご当地WAON」はどこでもご利用いただいても、ご利用金額の一部が自治体などに寄付されます。
毎月11日のイオン・デーは、幸せの黄色いレシートの日。あなたが応援したい団体を選んでレシートを専用BOXに投函していただく、お買上げレシートの合計金額1%と同額の品物をその団体に寄贈します。

さらに地域との取り組みが広がります
地産地消・地産全消、6次産業化やインバウンドの取り組みも始まります。
クラウドファンディングによる地域・企業・人への投資が広がります。

